

① 基本事項	計画コード		22077	事業名	学力向上推進事業		評価分類		A1				
	事業手法		☒ 直営 ☐ 一部委託 ☐ 全部委託 ☐ 補助等 ☐ その他（ ）										
	施策体系	施策の大綱	04:子育てと子どもの成長を支える環境の充実			予算科目	会計	01:一般会計					
		基本施策	01:子どもたちの豊かな学びと成長を支える環境の充実				款	10:教育費					
		施策の方向	03:希望をもって新しい時代に活躍できる子どもの育成				項	08:教育研究費					
		重点プロジェクト	04:「未来へのトビラ」プロジェクト				目	01:教育研究費					
	事業期間		H 27 年度	～	R - 年度	主な根拠法令等		第3期教育振興基本計画					
② 事業概要（P）	事業の必要性(経緯・背景等)			事業の対象(誰に、何に対して)		事業の目的(どのような状態にしたいのか)		事業の内容(どのような取組を行うのか)					
	全国学力・学習状況調査等によって明らかになった「わかったことや考えたことなどをまとめて表現する」等の課題を解決し、児童生徒一人ひとりの学力向上を図るため、「亀山市学校教育ビジョン」「亀山市学力向上推進計画」に基づいた取組を推進する必要がある。			小学校及び中学校の児童・生徒・教員		教職員の指導力の向上と授業改善を行い、児童生徒の学力の向上と定着を図る。また、中学校への運動部支援員を派遣し、教職員の授業準備や研修の時間を確保する。		教職員への各種研修会の開催のほか、国語科共通テストや「かめやまっ子チャレンジ」を実施し、教職員の指導力向上と児童生徒の学力向上を図る。また、中学校へ運動部活動支援員を派遣し、教職員の負担軽減を図る。さらに、「学力向上推進計画」の改訂を行う。					
③ 事業の実施状況（P・D）	年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度				
	事業計画		○教職員への各種研修会の開催 ○国語科共通テスト等の実施 ○運動部活動支援員の派遣 ○学力向上推進計画【第4版】の策定		○教職員への各種研修会の開催 ○国語科共通テスト等の実施 ○運動部活動支援員の派遣		○教職員への各種研修会の開催 ○国語科共通テスト等の実施 ○運動部活動支援員の派遣		○教職員への各種研修会の開催 ○国語科共通テスト等の実施 ○運動部活動支援員の派遣 ○学力向上推進計画【第5版】の策定				
	活動実績 (計画通り実施できたか)		教職員への学力向上研修会を2回開催した。国語科共通テストについて小3～小6の単元ごとに共通テストを作成し、各校当該学年で実施した。(年20回程度)運動部活動支援員として5名の登録があり、累計268回実施した。学力向上推進計画【第4版】の策定を完了した。		学力向上推進計画第4版の取組を進めた。説明動画等を作成し、全教職員が5月末までに各校研修会で視聴した。教職経験の浅い教職員が主体的に研修を行う機会を年間6回行った。国語科共通テストについて小3～小6の単元ごとに「読む・読み取る力」に重点を置いた共通テストを作成した。(年20回程度)運動部活動支援員は、5名の登録があり、累計395回実施した。								
	計画額	事業費	2,000千円	1,630千円	1,800千円	1,800千円	1,800千円		2,400千円				
		国・県支出金		0千円									
		地方債		0千円									
		その他		0千円									
		一般財源	2,000千円	1,630千円	1,800千円	1,800千円	1,800千円		2,400千円				
	決算額	事業費		1,266千円		1,549千円							
		国・県支出金		0千円									
		地方債		0千円									
		その他		0千円									
		一般財源		1,266千円		1,549千円							
	①期間内計画額(R4-7)			8,000千円	②期間外計画額(R8-)		0千円	①+②総計画額		8,000千円			

(令和5年度予算額の内訳)

前年度からの繰越額	0千円
当年度の最終予算額	1,800千円
次年度への繰越額	0千円

	指標名	説明等	種別	単位	区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
④ 指標 (C)	全国学力・学習状況調査の正答率	全国平均と比較して－5ポイント以内の問題の割合	成果	%	計画値 実績値	小学校 94中学校 72 小学校:90 / 中学校:64	小学校 96中学校 74 小学校66 / 中学校53.2	小学校 98中学校 76	小学校100中学校 78
	運動部活動支援員の派遣回数	中学校への運動部活動支援員の派遣回数	活動	回	計画値 実績値	50 53	50 79	50	50
	授業理解度	学校での授業を理解している子どもの割合(学校評価アンケート)	成果	%	計画値 実績値	小学校 91 中学校 88 小学校90 / 中学校87.2	小学校 91 中学校 88 小学校90.2 / 中学校88.3	小学校 92 中学校 89	小学校 92 中学校 89

⑤ 成果 (C)		事業実施により得られた成果(誰に(何に)対してどのような効果があったか)
	B	亀山市教育研究推進協議会の算数・数学部会に県指導主事を招聘し研修会を開催し、指導力の向上と授業改善につなげることができた。「全国学力・学習状況調査」と「みえスタディチェック」の結果を分析し、各校の「学力向上推進計画」の見直しと取組シートの報告を2回行い、授業改善のための具体的な取組につなげ児童生徒が主体的に学習できるように取り組んだ。授業理解度に成果が見られた。運動部活動支援員の配置により、教職員の研修や授業準備の時間確保につながった。
	まずまず成果を得た	

事業の対象	事業の目的
小学校及び中学校の児童・生徒・教員	教職員の指導力の向上と授業改善を行い、児童生徒の学力の向上と定着を図る。また、中学校への運動部支援員を派遣し、教職員の授業準備や研修の時間を確保する。

(再掲)

⑥ 課題 (C)	事業の達成状況等を踏まえた課題事項
	「全国学力・学習状況調査」と「みえスタディチェック」の結果により、全国・県平均に比べて小中ともに、複数の領域(データの活用等)において課題が見られることから、教員の教科の指導方法の改善に取り組む必要がある。児童生徒への質問紙調査より、「家庭学習の時間が少ない」ことから、家庭学習の見直しと定着を図る必要がある。

⑦ 事業 の 展 開 (A)	方向性	
	継続(現状維持)	現状どおり事業を継続する
	改善・見直し内容	
	令和6年度で対応する(した)もの 学力向上推進計画【第4版】を着実に進め、学力向上強化週間として「Kameyama Study Week」を実施するほか、市教委作成「亀ハタドリ」を対象児童生徒へ毎月実施する。また、一人一台端末の持ち帰りを促進し、家庭学習の充実を図る。(家庭学習の見直し、eライブラリの活用)	令和7年度以降で対応するもの 令和6年度の実施状況を鑑み、必要に応じて教職員の指導力向上及び授業改善に向けた措置を講じていく。

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
成果判定	A	B		
事業展開	継続(現状維持)	継続(現状維持)		

【履歴】

1次評価者	教育委員会事務局 学校教育課 教育支援GL 北川 恵美子
最終評価者	教育委員会事務局 学校教育課長 武居 政敏